

授業科目	薬理学				単位	2		
履 修	選択	関連資格	養教一種免		ナンバリング	WE21514J		
開講年次	3	開講時期	前期	該当DP	DP1-1			
担当教員	東 泉							
授業概要	<p>薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうかを学ぶ。  前半は、薬の作用のしかた、薬の有害作用、薬の効き方に影響する因子は何かを学ぶ。  後半は、汎用される主な治療薬について、なぜ効くのか、どのような有害作用があるのかを理解し、薬物療法に関する基礎的知識を身につける。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の取り扱いや保管に関する法律について説明できる。</li> <li>2. 薬物の生体内運命を説明できる。</li> <li>3. 薬効に影響する因子について説明できる。</li> <li>4. 主な薬物の作用のしかた、薬理作用、有害作用を説明できる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)	80	20	0				100	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準的なレベルを十分達成し、臨床で使用される頻度の高い薬物の作用や副作用について理解し説明できる。				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品の取り扱いや保管について説明できる。</li> <li>2. 薬物の生体内運命を説明できる。</li> <li>3. 薬効に影響する因子について説明できる。</li> <li>4. 主な薬物の作用のしかた、使用上の注意点を説明できる。</li> </ol>				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	テーマ:薬の種類 薬理学の概説、医薬品とはなにかを解説する。			講義 必要に応じてスライド、資料を使用		該当部分の予習・復習		30

2	テーマ:薬の生体内運命 薬は生体内でどこにどのように作用するのかについて解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
3	テーマ:薬の効き方に影響を与える因子 薬剤側、生体側の因子について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
4	テーマ:薬の有害作用 薬の有害作用、相互作用について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
5	テーマ:医薬品の取り扱い 医薬品の保管管理を規制する法律と特に注意を必要とする薬物について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
6	テーマ:末梢神経作用薬 自律神経系(交感神経、副交感神経)に作用する薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
7	テーマ:中枢神経にはたらく薬1 鎮静催眠薬や精神・神経疾患の薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
8	テーマ:中枢神経にはたらく薬 2 抗てんかん薬、抗うつ薬など精神・神経疾患の薬、鎮痛薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
9	テーマ:循環器にはたらく薬 心臓の疾患、血圧、心不全、不整脈の治療薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
10	テーマ:炎症をおさえる薬と抗アレルギー薬 抗炎症薬や抗アレルギー薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
11	テーマ:呼吸器にはたらく薬 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
12	テーマ:血液・胃腸にはたらく薬 貧血の治療薬、止血薬、消化機能調整薬などについて解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
13	テーマ:感染症と治療 学校で流行する感染症について 抗菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・復習	30
14	テーマ:がんと治療、まとめ 抗悪性腫瘍薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	該当部分の予習・総復習	30
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	生化学・生理学の基礎知識があるとわかりやすいと思います。			
テキスト	教科書: イラストで理解するかみくだき薬理学 第2版 (町谷安紀著, 南山堂, 2020年, 2300円+税)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 3 薬理学 第14版 (吉岡充弘著 医学書院) 治療薬マニュアル 2021 (医学書院)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	疾患の病態生理学的な知識があるとわかりやすいです。 テキストには説明が簡略化してあるところがありますので、テキストを読んでよくわからないところや深く知りたいところがあれば、自習時に調べてみて下さい。			
達成度評価に関するコメント	試験、小テストについては授業の中で指示します。			

